

瀬谷区地域福祉保健計画推進シンポジウム 議事録

平成23年11月26日(土)

瀬谷公会堂

来場者 約270名

1 開会

2 主催者あいさつ 瀬谷区長 外ノ池 浩志

3 第2期瀬谷区地域福祉保健計画について 第2期瀬谷区地域福祉保健計画策定委員長
法政大学 教授 名和田 是彦 氏

4 地区別計画の紹介

- (1) 本郷地区 水野 伍平氏、岸本 嘉章氏
- (2) 宮沢地区 藤代 睦夫氏、早坂 タキ子氏
- (3) 相沢地区 相澤 孝志氏、外山 瑞男氏

5 セヤッコソーラン連絡協議会 上演

あづまのWAKAダンナ〜ズ
横浜隼人高校
オキタマ太鼓

6 パネルディスカッション

コーディネーター：横浜国際福祉専門学校 顧問 豊田 宗裕 氏

パネリスト：地区別計画発表者の皆様

瀬谷福祉保健センター担当部長 本田 秀俊

(1) 全体的な質問

自治会に入っていない人も増えている中で見守る対象者の発掘が難しい。また、高齢者が多くなってきており、見守る担当者の確保が難しいが、見守る人、見守られる人どう発掘するのか。

本郷地区

まず、カラオケ、サロン、イベント等に参加してみる、ボランティアは、参加者から「楽しかった。また来るね。」など言われるとやる気にもつながる。

宮沢地区

宮沢地区は、自治会加入率97.5%と高いが、高齢化が進んでいる。男手が不足している。ボランティア発掘については、中学生が夏休みに地域活動に参加してくれているので、親にも福祉社会を知ってもらうきっかけになる。

中学生ボランティアについては、南瀬谷中学校、原中学校の先生に依頼している。

女子中学生は、子育てサロンでのボランティアが多い。

相沢地区

民生委員との連携やサロン、ふれあい食事会に参加する。足が悪い人には送迎を実施。「助け合いの会」を立ち上げ、担い手の発掘と育成に取り組む。

(2) 各地区への質問

本郷地区

Q：1期計画の課題について、どう解決したのか。

A：平成20年に、友愛活動推進員・保健活動推進員・民生委員がバラバラに活動していたので、三者での集まりが必要という話になり区役所で意見交換を行った。老人クラブの会長もメンバーに入った。事務局は、各自治会から会長に推薦をしてもらい11名。さらに、民生委員は、地域福祉の中心になる存在で、自治会から推薦されて選ばれているため自治会に活動報告の義務がある。従って、民生委員10名も事務局に入ってもらった。2期計画は、4部会ですすめていく予定。

宮沢地区

Q：①食事会の運営の予算、NPOとの関係、②障害者理解の活動ポイントと方向性を教えて欲しい。

A：①食事会の運営の予算、NPOとの関係

食事会は20数年続いており、利用者は300円の会費を払っている。

宮沢連合自治会から補助金が出ている。

以前は、木曜の会（二ツ橋の配食センター）から配食していたが、閉鎖となり、瀬谷区社協からNPO法人「キッチン窓」を紹介してもらった。NPO法人「キッチン窓」は、下瀬谷で障害者と一緒に食事を作っている。地区社協、区社協、NPO法人「キッチン窓」で3者協定を結び、食事を配っている。（20食 400円）

1,000円/年の会費は、宮沢地区社協が負担している。

②障害者理解の活動ポイントと方向性

一昨年は、地域作業所、地域活動ホームを役員20名が5班に分かれて見学して、見たこと聞いたことをまとめて冊子を発行した。昨年は、障害児地域訓練会「ほっぺ」の方を講師に、家族の切実な話を聞いた。今年は、盲導犬の勉強を行った。障害者の生活、考え方を理解することを目標に考えている。次は、何が支援できるか行動の段階に移りたい。中途障害者の支援「おとなり会」（民生委員がやっている）も見学した。地区社協の理事（役員会）に障害者団体の役員に入ってもらい、障団連の活動を発表してもらって障害者理解をすすめている。

地域作業所、地域活動ホーム、養護学校のこども達は昼間は通うところがあり、それ以外の時間帯で何が支援できるか、時間的な制約もある。

→他のエリアでも報告の場があると良いとの意見あり。

相沢地区

Q：ふれあい食事会とふれあいサロンについて伺いたい。（予算、参加者数など）

A：・ふれあい食事会は、年6回開催、毎回40~50名程度参加しており、会費は200円。

（昨年の3月までは無料だったが、4月から会費制となった）

内容は、血圧測定、カラオケ、日本舞踊、大正琴などを行っており、足や腰の具合の悪い人もいるが、皆さん楽しんで参加している。

予算は、30万/年 助成金も若干ある。

ふれあい食事会は、10月に神奈川県社会福祉協議会会長賞を受賞した。

以前は、給食会だったが、 → 食事会に名称を変えた。

(給食だと学校みたいとの意見があった。)

- ・ふれあいサロン(会場は2箇所)は、相鉄線を境に南北にそれぞれ開設した。サロンⅠは、手芸、カラオケ、サロンⅡは、体操などを行っている。20名程度が参加、会費は100円。活動費を4万/年補助している。

(3) 今後の進め方

本郷地区

「見守り支え合いの会」をすすめるうちに(住民の)真意をつかむ必要性を感じ、また、ボランティアの発掘も必要と感じたので、アンケート調査を行いたいと考えている。

アンケートは、支援して欲しい人と支援できる人の2種類を実施して、住みやすい町づくりを目指す。

宮沢地区

高齢者サロン、健康づくり、見守り、給食会、配食などは、おおむね順調に進んでいる。将来課題は、災害対策や後継者づくりが中心になってくる。特に、弱者の災害対応が必要である。地域医療救護拠点、特別避難場所などを理解して、有効に利用したい。防災備蓄倉庫の中身の充実も考えたい。後継者づくりは多面的に思案中である。

相沢地区

3つの課題別に推進員を募集し、役員と合同の推進委員会で今後の具体的な取組を検討していく。近所への声掛け、見守り運動を推進するためには、各町内会との連携、協力をすすめていく。「助け合いの会」の開設を目指し、ボランティアの掘り起こしも推進委員会で考えていきたい。

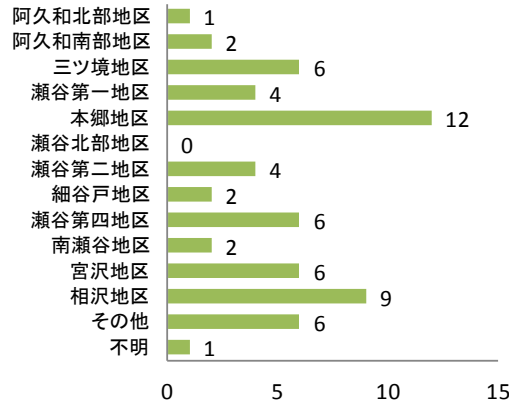
区役所(本田部長)

地域福祉保健計画は「みんなでつくるみんなのしあわせ」を合言葉に平成18年から進めている。当初は、手探りで実施していた。今は、見守り、災害対策など、各地区すすんできた印象がある。今は、次の段階に入っている。手探りの活動を充実、強化するにはどうしたら良いか、やっているからこそ見えてくる課題もある。また、他の地区活動で刺激を受けて、自分の地区を考える時期だと思う。平成18年に計画を進めるにあたって行政も行動様式を変えなくてはいけない、職員も地域に出よう、と地区支援チームを発足させた。5カ年の間に区民と話を色々な話をさせていただき、職員もおもしろさや楽しさに少し気がつき始めた。行政も次の段階に入っている。地域の拠点や担い手の不足、障害者、外国籍の人たちの取り組みをどうするか、このような課題にどう寄り添うのか求められている、行政職員のコーディネート力が問われる時期になった。課題について、国や県の制度の利用、社協やケアプラザとのどう連携すれば支援ができるのか、あるいは自分達独自の取り組みをどう作っていくかなど、職員の力量が問われる時期になった。

アンケート結果

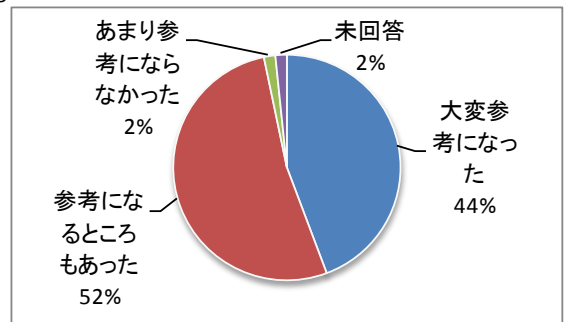
【回答者 61 名】

【回答者居住区】



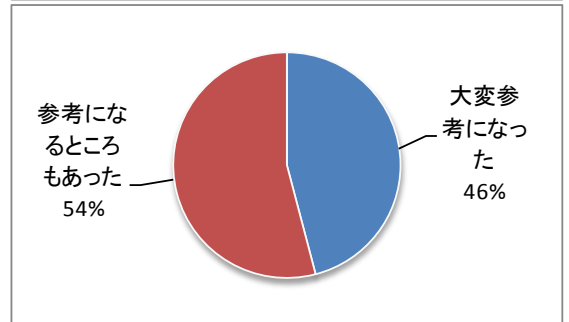
1 全域計画の内容はいかがでしたか？

①大変参考になった	27名
②参考になるところもあった	32名
③あまり参考にならなかった	1名
未回答	1名



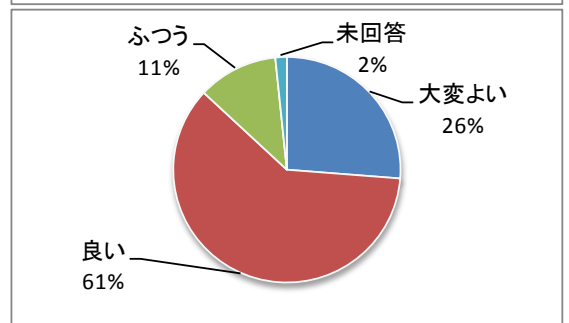
2 各地区の地区別計画の内容はいかがでしたか？

①大変参考になった	28名
②参考になるところもあった	33名
③あまり参考にならなかった	0名



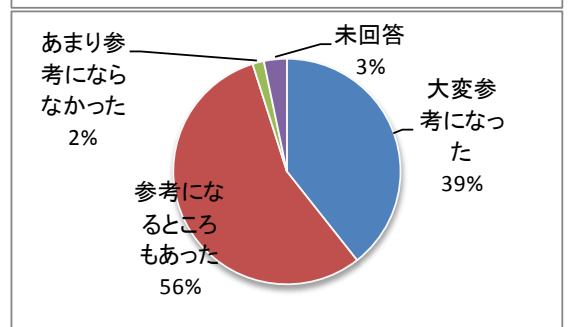
3 各地区の地区別計画のパネル展示はいかがでしたか？

①大変よい	16名
②よい	37名
③ふつう	7名
④良くない	0名
未回答	1名



4 パネルディスカッションの内容はいかがでしたか？

①大変参考になった	24名
②参考になるところもあった	34名
③あまり参考にならなかった	1名
未回答	2名



5 本日のシンポジウム全体を通してお気づきのことや感想がありましたらご記入ください。

全域計画 国の福祉施策の流れも含めての説明で理解が深まった。
障害者への取組を検討しているところだったので、宮沢地区の障害者への支援は大変参考になった。
各地区別計画については、連合自治会と地区社会福祉協議会が一体となって推進する必要があると思う。地域福祉の担い手である民生委員・児童委員との連携が重要だと思う。
大変勉強になった。資料を見ながら今後何ができるか考えたい。すばらしい活動を継続されている方々の貴重なお話を聞けてありがたい。
各地区で「見守り」について課題を抱えながら問題解決に真剣に取り組んでいることを知り大変心強く思った。
パネル展示はいいアピールの場になっている。活動紹介は地区の方たち自身にも励みになっているのではないかな。
地区の活動の広がりや継続していることがよく分かった。
コーディネーターの進め方がよく、うまくパネリストの話を引き出しており分かりやすかった。役所と地域の距離が縮まったように思います。
行政委員からの話で、行政が地域に入り一緒に作りあげるスタンスには大いに共感しました。
全体的によい内容だったが、もっと広く多くの団体が参加できればよかった。
ソーランと太鼓で会場が盛り上がり、とてもよかった。
若い人の太鼓・踊り等に元気をもらい感謝。
高齢化が進行している現代において福祉をどうとらえればよいか参考になる部分が多々あった。しかし、自治会に加入していない高齢者をどう支えていくかも課題。
他地区の町内会活動が活発であることに驚いた。最近は町内会活動に参画する人、役員になる人が少なくなっている。
区内の各地区社協の交流の場として、学ぶことが多くあり今後も継続して開催していくことが大切。
見守りメンバーと民生委員で見守りについてのディスカッションする場がほしい。